

# Trader's Databank

砂田伊知郎 sunada@bug.co.jp

山一証券、山一情報システム、NY駐在を経て、現在㈱ビー・コー・ジー/プロジェクト推進本部で国際業務・新規事業企画を担当。

NOTE：先月号で「スルガ銀行ソフトバンク支店開設」のニュースをお伝えしました。その後ソフトバンク・ファイナンスでは、北海道・関西・四国・九州の有力地方銀行10行程度と近く同様の提携をすると発表しています。ソフトバンクは地方銀行の「のれん」を利用し、地方銀行はソフトバンクの知名度を活用してオンラインバンキングを運営できるので、双方にメリットがある取り組みに見えます。

ところで、全国に「××銀行ソフトバンク支店」が開設されると、各銀行の「ソフトバンク支店」同士で競争が起こるのでしょうか？ それとも単に「ソフトバンク・ファイナンス」××銀行「バーチャル支部」となり、ソフトバンク・ファイナンスの全国サービスの1つになるのでしょうか？ 前者であれば利用者に利益をもたらすものの、後者であればソフトバンク1社で大きなシェアを取ることになり、銀行間の競争を阻害することも考えられます。今後の展開を見守りたいものです。さて、ロンドン証券取引所とドイツ取引所（フランクフルト証券取引所など国内取引所の持ち株会社）が今年中に対等合併し、ロンドンを本部とする「インターナショナル・エクスチェンジ」（略称iX）を設立することが決まりました。さらに両取引所は、ナスダックを運営する全米証券業協会と合併会社を設立し、ベンチャー企業向けの市場設立も決めています。これらの動きは欧州の統一による証券取引所の再編とナスダックの欧州上陸、そして電子証券取引ネットワーク（ECN）の台頭が背景にあるものです。

世界中の証券取引所がITの発展による電子取引の普及で大きな変革を求められていることは何度か述べてきました。今後はアジアの主要取引所でも提携・合併などダイナミックな動きが出てきそうです。

（2000年5月8日）

## 今月の一覧表

### 日本のオンライントレードを完全チェック

# 54社

新登場：ウィット・キャピタル証券、内藤証券(2社)

掲載オンライントレード

詳しくは一覧表(324ページ)に

## 郵便貯金がインターネットサービスの実証実験を開始!

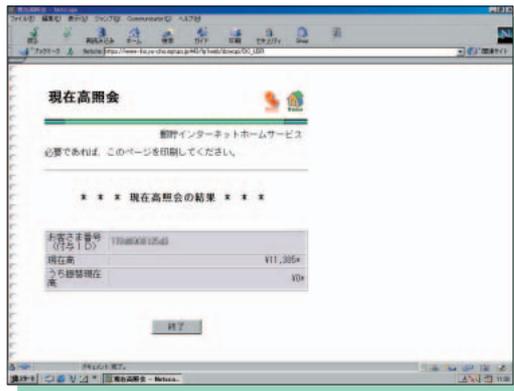
いよいよ郵便貯金によるインターネットサービス実証実験が開始された。モニターとして選ばれた2万人が参加する。実証実験で利用できるサービスは以下の4つ。

- ・電信振替（口座間送金）
- ・電信現金払（居宅送金）
- ・現在高照会
- ・デビット決済サービス

各サービスとも銀行で実現されているオンラインバンキングと同様の内容だが、「さすがに郵便局」と思わせるものが「電信現金払」

（居宅送金）だろう。これは、希望する送金先に現金が配達されるもので、インターネット上で現金書留が作成できるサービスと思えばいいだろう。ただし、通常の現金書留で10万円を送る場合、郵便利用では郵送料として680円かかるのに対し、インターネット利用では1210円が必要だ。差額の530円を高いと見るか安いと見るかは判断が分かるところだが、現金書留封筒を郵便局まで持って行く手間を考えると割安と考える向きもあると思う。山間部に住む高齢者など、郵便局や銀行のATMへ容易に行けない人への送金には便利であろう。

また、有料にはなるがこのサービスでは現金と一緒に通信文も送れる。定型文からの選択か全角文字入力で120字までの文章を送付できるのも郵貯ならではのサービスだ。ちなみに、「電信現金払」（居宅送金）のみならず、「電信振替」（口座間送金）でも通信文の同時送信ができる。



本記事は株式などの金融商品への投資を勧誘・推奨するものではありません。投資、運用は自己の責任において行ってください。なお、記事に対するご意見はim-kabu@impress.co.jpまでお寄せ下さい。

その他、オンラインショップでのデビット決済サービスも提供している。まだ利用できるモールが少ないが、今後増加してゆくものと

思われる。ただし、利用料として振替金額の1%（最高100円）が必要だ（モール側が手数料を払う場合は、利用者の手数料負担は

ない）。クレジットカードによる支払いでは原則として利用者が手数料を支払う必要はないので、今後の検討課題となりそうだ。

速報!

## あさひ銀行・東海銀行の新サービスをキャッチ!

6月12日よりあさひ銀行・東海銀行が新たなオンラインバンキングサービスをスタートさせる。このサービスは、両行の共同開発によるもので、基本となる機能は両行共通だが、付加サービスは異なっており、両行で差別化を図っている。

主な拡張機能としては、「支店をまたがる本人名義口座間での振り替え手数料の無料」、「入金金細の照会が最長で3か月間可能」がある。その中で、普通預金の入金金細照会期間が3か月というのは現在サービスを提供している都市銀行・外国銀行の中で最長となる。

その他、「とくとく振込」というサービスがあり、銀行と提携している企業の振込手数料が割引される。オンライントレードなど、顧客からの振り込みが頻繁に発生する企業があさひ銀行と提

携していれば、振り込み手数料が割安になる。

また、定期預金のサービスも開始される。インターネット上での新規口座開設や残高明細照会も可能となるので、資産運用には大いに活用できそうだ。現在、シティバンク以外ではインターネット上での定期預金の取引ができない状況なので、他行との違いを打ち出した格好だ。

一番の注目点は、あさひ銀行が「インフォメーションボード」と呼ばれる、顧客ごとにカスタマイズした掲示板を提供することだ。これは顧客の取引履歴や取引傾向、嗜好などが登録されたデータベースをもとに、顧客ごとにふさわしい情報を提供してゆくもので、銀行として本格的なOne-To-Oneマーケティングを実現するものだ。あさひ銀行のように「顧客を知ってサービスを提供する」という動きは、銀行が



サービス業として脱皮しようとする試みとして関心が持たれる。

## DLJディレクトSFG証券がオリジナルソフトを発表!

オンライントレード各社はマーケット情報の提供会社と提携して、リアルタイム株価やチャート機能、金融ニュースなどを提供している。主なマーケットデータ参照サイトやソフトとして「Quick-IS Web」「日経テレコン21」「GCオブティキャスト」「ゴールデンチャート社」などが挙げられる。これらのサイトやツールに共通する点は、「静的」なデータ更新であることだ。つまり、リアルタイムの株価といっても更新ボタンを押した際の株価データであり、ダイナミックに画面の株価が更新されるものではなかった。

そんななか、DLJディレクトSFG証券は、5月中旬から「MarketSpeed」というソフトを

口座保有顧客に提供していく。このソフトを利用すると、インターネットを通じてリアルタイム金融情報入手ができるようになる。

「MarketSpeed」には、株価情報やチャート以外にも、保有銘柄ポートフォリオの時価評価や分析などさまざまな機能が組み込まれている。金融ニュースについても、ロイター社配信のニュースが随時更新される。画面を開けておくだけで次々とニュース項目が更新されてゆく様子は、さながらプロのトレーダー用の情報端末を見ているかのようだ。

「MarketSpeed」では、最大で4つのウィンドウを同時に開けておくことができる。リアル

「マーケットスピード」は、今月号の付録CD-ROMに収録されている。収録先: CD-ROM Win Dij 利用にはDLJディレクトSFG証券の会員になる必要がある。

タイム株価やチャート、保有銘柄の時価評価といった画面を見ながら注文できるため、市場の動きに即して売買の判断ができるようになる。













## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)